

自然教育園の唇足類と倍足類

篠原圭三郎*

Chilopods and Diplopods of the National Park for Nature Study in Tokyo, based on the 1978–1979 Investigations

Keizaburo Shinohara*

東京都港区の自然教育園内の多足類の調査は、これまで次の2回がおこなわれている。

1949年（報告書：高島春雄・篠原圭三郎：自然教育園内の多足類, *Acta Arachnologica*, 11(3/4), 95–96, 1949)

1963–1964年（報告書：篠原圭三郎：自然教育園の多足類, 自然教育園の生物群集に関する調査報告第1集, 124–128, 1966)

今回、ふたたび15年ぶりの調査がおこなわれ、1978年9月～1979年8月に採集された標品を同定する機会が得られたのは嬉しいことであった。報告書作成までにごく短期間の余裕しかなかったので、全標品を見ることができなかったが、代表的な種は出そろったように思われる。次にそれらの種について解説を記してみたい。この機会を与えられた採集調査者の自由学園藤田朋子、宇野リベカ、大塚ちか子の諸氏に謝意を表す。

Chilopoda 唇足類

1. *Mecistocephalus takakuwai* VERHOEFF タカナガズジムカデ
日本産の *Mecistocephalus* 属のうち、歩肢が59対のものは本種と *smithi* の2種である。この両種には中間型を示すものもあるので、今後は両種の形態の再検討が望まれている。自然教育園内のジムカデの優占種である。
2. *Prolamnonyx holstii* (POCOCK) ツメジムカデ
歩肢41対の種で北海道から台湾に至る広い範囲に分布している。自然教育園内で前種について多い。
3. *Queenslandophilus macropalpus* TAKAKUWA ツメナシクインジムカデ
日本産のジムカデ類で、歩肢37対を有し、最終肢に爪を欠いているのは本種のみである。本州中部地方で、平地から亜高山帯にまで棲息しており、地理的には本州と北海道に分布している。本種の属名については問題があるが未発表なので、混乱を避けるため発表までこれまでの属名にしてある。
4. *Scolopocryptops sexspinus* (SAY) アカムカデ
歩肢23対。背板に2縦溝なく、いくつかの背板後縁に3短溝がある。最終歩肢の脛節や跗節に密毛はない。

* 東京都立小岩高校, Koiwa Kōtō-Gakko, Tokyo

5. *Scolopocryptops* sp.

前種に似るが最終歩肢の脛節や跗節にやや長い毛が多数生じている。関東地方平野部に広く分布する未記載の種である。

6. *Bothropolys asperatus* (L. KOCH) イッスンムカデ

歩肢15対。第12~15肢の基節腹面に不規則に腺孔群がある。顎肢基胸板前縁の歯板には7+7以上の小歯があり、その最外歯の外に接した副棘がある。アジア東部に広く分布し、日本でもっとも普通の本属の種である。

7. *Lithobius* sp. イシムカデ属の1種8. *Monotarsobius elegans* SHINOHARA ダイダイヒトフシムカデ

体長7~8mm。全体に濃い黄褐色で光沢がある。触角17小節。単眼は1列に4個あり、その3番目の単眼が最大。第14・15肢は他肢にくらべ膨太している。関東地方に広く分布しているが、良く似た未記載の種もある。

9. *Monotarsobius* sp. ヒトフシムカデ属の1種

前回記録された *M. crassipes holstii* の幼生かと思われる。

10. *Esastigmatobius longitarsis* VERHOEFF ナガゲジムカデ

歩肢には不規則に多くの剛棘毛が生じている。触角小節数は約40個ぐらいある。本州以南にふつうの種。

11. *Anopsobius japonicus* MURAKAMI メクライシムカデ

体長約5mm。黄褐色無眼。触角18小節の小型のイシムカデ類の Anopsobiinae 亜科の1種である。今回の調査ではじめて棲息が確認された。本種は、はじめ四国愛媛県から記載されたが、赤間日吉氏（未発表）は本種を栃木県および東京都目黒区から採集しており、自然教育園は第4番目の産地となる。本種のもつ特徴は原記載者の村上好央（1967）も指摘しているように *Anopsobius* 属の標徴から逸脱している点があり、かつ ZALESSKAJA（1975, p. 1317）の記載したソ連邦タジク地方産の *Ghilaroviella* に近似のものであることから新属を構成する可能性が高い。このことについては別に論ずる予定であるので、それまで本報においては上記の種名としておく。今回の調査で得られた種類の中で分類学上からも、分布上からも特記されるべきものである。珍稀種。

Diplopoda 倍足類12. *Hyleoglomeris insularum* VERHOEFF ミクニタマヤスデ

VERHOEFF（1936）の原記載以後、高桑（1954）も三好（1959）も雄を記載しなかったので分類学上に混乱が生じているが、関東地方の平野部には広く分布している代表者。大胸背板の全通溝線はほとんど2本、後溝線は2~4本である。雄生殖肢の弁片中央は凹まず、基節側突起に生じる毛は内縁のみで、外縁には0~1本のみである。自然教育園内では体色に2型あるので今後の研究課題である。

13. *Oxidus gracilis* (KOCH) ヤケヤスデ

汎世界的分布種。本種は人為的条件での分布拡大が疑われる種であり、自然教育園内での棲息はその棲息密度が今後どう変化するか注目されるものである。

14. *Epanerchodus* sp. オビヤスデ属の1種

1949年の調査にみられ、前回1964年には確認されなかったが今回再び得られた。幼生と雌のみで種の確定にいたらなかったのは残念。

15. *Niponia nodulosa* VERHOEFF マクラギヤスデ

長小判形で、背板20枚が枕木を並べたように見える。体色は濃褐色でつやがない。幼虫は淡紅白色。自然教育園内にはたいへん多い。関東以南に分布する。

16. *Archandrosdesmus japonicus* MIYOSI オオギヤスデ
 体長5～6mmで淡褐色。前種に似た長小判形であるが、頸板の形が異なる。自然教育園内に多い。自然教育園でもそうであるが、この両種は混棲している場合がよく見られる。
17. *Ampelodesmus granulosis* MIYOSI ハガヤスデ
 背面正中線を囲み2列の瘤起列がある。体長5～6mm。暗緑色で、腹面白色。アリの巢内に共生する生活は特異であるが、リター内からも得られている。
18. *Tokyosoma* sp. フトケヤスデ属の1種
 たぶん *T. takakuwai* VERHOEFF フトケヤスデと思われる。多数の幼生が得られている。

考 察

前回調査で得られ、今回得られなかったのは *Nodocephalus* sp., *Scolioplanes maritimus japonicus*, *Geophilus* sp., *Scolopocryptops rubiginosus* の4種であり、新たな種は *Anopsobius japonicus* である。*Epanerchodus* sp. は前回なかったが前々回には得られている。

構成の型はジムカデ類で *M. takakuwai*—*Pr. holstii*—*Q. macropalpus* であり、ヤスデ類で *Hyleog. insularum*—*Niponia nodulosa*—*Archandrosdesmus japonicus* であり、典型的な関東南部のあまり乱されないタイプを示している。植生との関連については本報では検討しなかった。